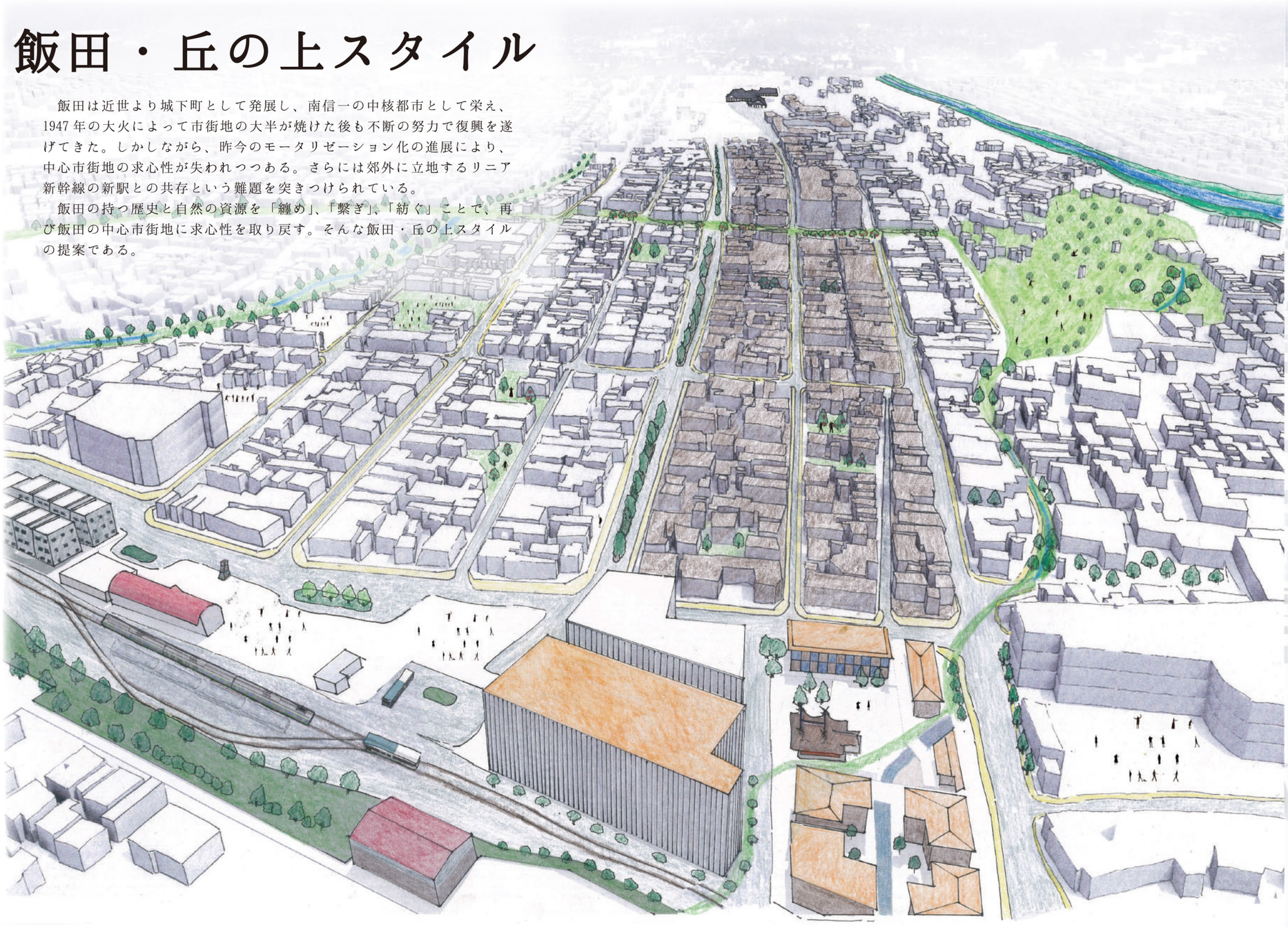
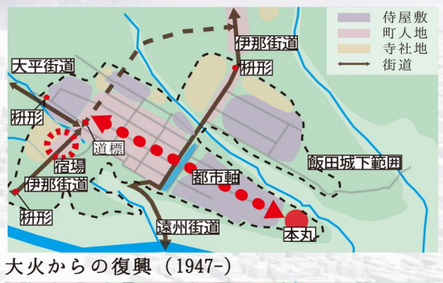
飯田・丘の上スタイル

飯田は近世より城下町として発展し、南信一の中核都市として栄え、1947年の大火によって市街地の大半が焼けた後も不断の努力で復興を遂げてきた。しかしながら、昨今のモータリゼーション化の進展により、中心市街地の求心性が失われつつある。さらには郊外に立地するリニア新幹線の新駅との共存という難題を突きつけられている。

飯田の持つ歴史と自然の資源を「纏め」、「繋ぎ」、「紡ぐ」ことで、再び飯田の中心市街地に求心性を取り戻す。そんな飯田・丘の上スタイルの提案である。

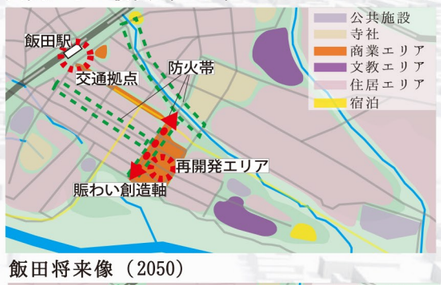


城下町としての飯田（-1947）



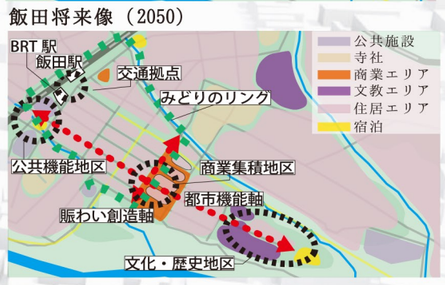
戦国時代から城下町として栄えるとともに「塩の道」の宿場として交易で賑わった。本丸から町人地の中心を貫き飯田の玄関口まで伸びる本町通りが都市の軸となっていた。

大火からの復興（1947-）



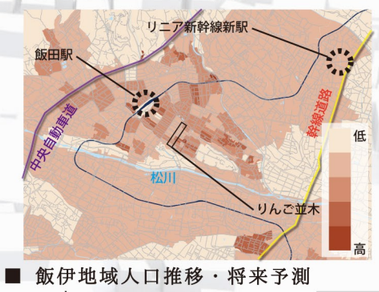
飯田大火によって、美しい近世の街並みが失われてしまう。新たに３本の防火帯が計画され、そのうちのりんご並木は飯田のシンボル・賑わいの中心となるなど、新たな文化が生まれたと言えるだろう。

飯田将来像（2050）



都市軸に沿った機能分担を復活させ、駅前に行政機能、りんご並木周辺に商業機能、飯田城周辺に文化・歴史発信機能を集積させる。また、中心市街地を巡る緑をむすぶことで、飯田市街地を周回するみどりのリングを形成する。

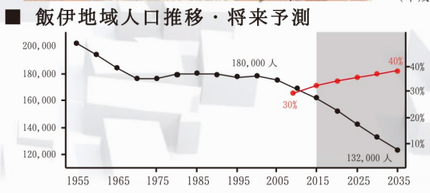
■ 飯田市街地の人口密度



町丁目別の人口密度をみると人口は広範囲に張り付いていて、中心市街地の空洞化が進行していることが見てとれる。リニア新幹線新駅の設置により、人口の郊外流出がさらに進行するリスクがある。

（平成 22 年度国勢調査より作成）

■ 飯伊地域人口推移・将来予測



人口減少や高齢化はこの 20 年で大きく進行することが見てとれる。

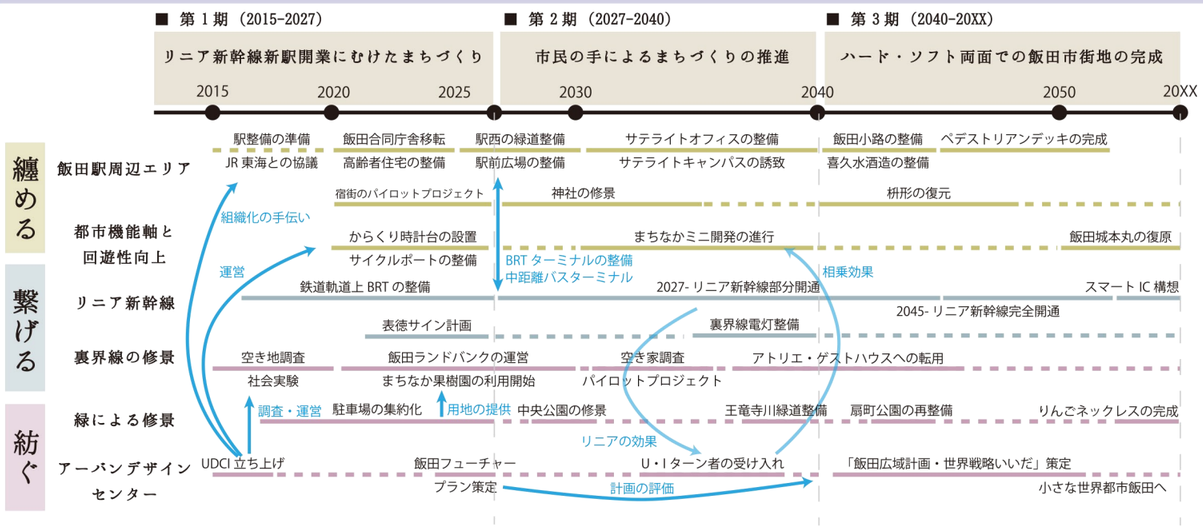
（しんきん南信州地域研究所資料より作成）

飯田まちづくり方針

飯田の中心市街地に失われている「求心性」を取り戻す

	纏める　手法１ 都市機能を集約することで賑わいをつくります	繋げる　手法２ 都市機能を集約したものをつなげることで回遊性を生み出します	紡ぐ　手法３ 歴史や自然の資源を表出させることで愛着を促します
近隣スケール　目標１ 近隣との繋がりを再強化し、住みたくなる中心市街地を実現します	・市街地に分散した駐車場を市街地周縁部に集約します。	Project1 ・空き地を利用した果樹園の整備し、近隣住民で集まることのできる場を提供します。	Project2 ・表徳で近隣を再定義します。 ・サイン計画や裏界線の修景にも表徳を活かします。
飯田市スケール　目標２ 「住む・憩う・働く」の一体化を目指した機能集約を行います	・飯田駅周辺地区への行政機能の集約を行います。 ・リンゴ並木周辺の地区にも商業機能を中心に機能集約します。	・飯田の都市軸を整備し、拠点同士をつなぎます。	・いいだまちづくりカンパニーを発展・継承させて、UDCI（アーバンデザインセンター飯田）を組織します。
飯田市スケール　目標３ 豊かな自然を活かしたまちづくりを行います		Project3 ・市街地周囲に緑地を整備し、緑を線形につないで景を連続させます。	・手作り農園や果樹園を整備し、市街地を丸ごと果樹園にします。
広域・国土スケール　目標４ 長野の南の玄関口として、国内外の来訪者に向けて整備を進めます	・宿泊所を飯田の都市軸上に集約します。	Project4 ・リニア新駅と飯田駅を BRT で接続し、市街地から長野各地へ向かうバスターミナルを整備します。	・水引等伝統文化を外国人にも発信します。 ・Uターン・Iターン者の受け入れを進めます。

まちづくりのプロセス



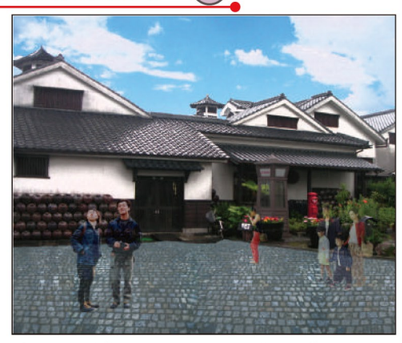
駅周辺整備計画

駅周辺機能配置方針

広域的な役割として、飯田駅周辺には中心市街地と他地域、他都市、他国とのゲートとなる機能を配置する。ゲートには「ハード」としてのゲートと「イメージ」としてのゲートがあり、それぞれを担う機能を持つ施設を配置する。
狭域的な役割としては、中心市街地における地域交通の拠点であることを活かして業務機能を持った施設を配置する。

喜久水酒造の拠点新設　紡

飯田の名産物の一つである喜久水の酒蔵を駅西広場の場所に配置する。目的地ができることにより、駅西側にも人の流れができる。さらに、いいだりんごネックレス上にあることに配慮し和風の酒蔵と調和のとれた日本庭園を酒蔵の周囲に配置する。また、飯田駅北側に中央自動車道のスマートＩＣができることを想定して、バスツアー客を取り込む。



喜久水の試飲などで賑わい、酒蔵の見学もできる

飯田小路　纏

駅の西側に商業エリアを設け、飯田小路と名付ける。将来的に飯田駅北側に中央自動車道のスマートＩＣが設置されて長野県駅が飯田駅を経由して接続されることを考える。これにより、この地点の乗用車、バス交通量が増加することから、喜久水酒造とともに、飯田を発信するスポットとして整備する。低層の商業施設が裏界線をイメージした通路に向き合って並んでいる。

裏界線をイメージした狭い街路は賑わいを生む

デッキでつなぐ　繋

現状では、地下道でつながっている駅の東と西を、東側はサテライトキャンパスの２階レベルと西側の２階レベルをデッキでつなぐ。これにより、サテライトキャンパスが動線上になることにより、キャンパスのオープン性が向上する。また、デッキ上に緑を連続させることで、駅の東と西の緑を連続させることができ、中心市街地を巡る緑をつなげることができる。

駅西側の緑道と喜久水酒造の視点場となる

枡形の復元　紡　繋

江戸時代の枡形を再現した商業施設を建設し、隣接する神社とともに修景し、駅前空間のゲート性を示す。枡形の内側はパティオになっており、オープンカフェを楽しむことができるなど、観光客にとっては飯田の歴史を知ることができるスポットとなり、市民にとっては新たな憩いの場となる。

復元された枡形はかつての玄関口と現代の飯田駅のゲート性をつなげる

高齢者住宅　纏

今後、高齢化社会が進行するにしたがい、自動車の運転できない後期高齢者の増加が予想される。そこで、高齢者が歩いて暮らせる住環境を作ることが必要であるが、この場所は公共交通機関、飯田病院、行政機能と近接した場所に十分にその環境を満たしている。

サテライトオフィス　纏

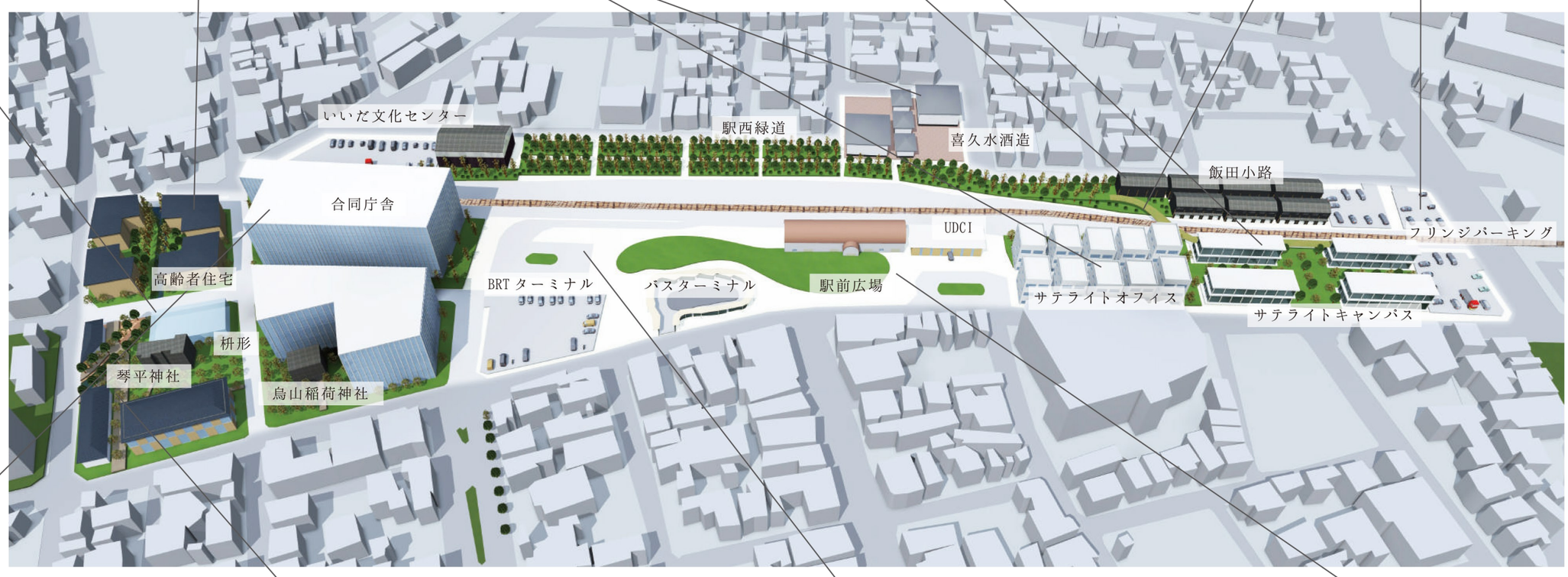
飯田の町割りと裏界線を取り入れた建物配置をする。サテライトキャンパスと隣接することで、産学連携の機会創出を促す。

サテライトキャンパス　纏

飯田中心市街地にサテライトキャンパスを設置することで、飯田の文化づくりを促進させる。生徒が学んだことを住民に発表する場にもなる。また、まちづくり組織「アーバンデザインセンター飯田（ＵＤＣＩ）」と連携することで、官民学連携のまちづくりをすることができる。

駐車場配置　纏

駅の両サイドにフリンジパーキング集約することで、駅周辺空間に歩行者にやさしい環境を作り出す。



合同庁舎の移設　纏

都市機能軸に沿って機能分担するうえで、地方全体の利便性を考慮し、駅周辺に長野県合同庁舎、飯田地方合同庁舎を移設する。その際に、駅西側を緑道として整備するため、ＪＲの施設を庁舎と一体化する。また、この移設事業はＪＲとのＰＰＰで行うことで、公共の負担を減らし、より市民にとって利用しやすい施設にする。

駅前広場から合同庁舎を望む

川沿い・駅西の緑道整備　繋

琴平神社と烏山稲荷神社を修景・再興する。この場所は歴史的に飯田城下町の玄関口であり、枡形や足軽長屋が配されていた。長屋形式の宿泊施設やパティオを神社と隣接して整備することで、神社の修景とともに歴史的な景観を復元する。

ＢＲＴターミナル　纏　繋

鉄道軌道上空間を利用したＢＲＴのターミナルを高速バスターミナル、飯田地方バスターミナル、パークアンドライド駐車場、ＪＲ飯田駅と隣接した場所に作ることにより、リニア新幹線と飯田の地方交通の結節をよりスムーズにし、駅前地区を飯田中心市街地の玄関口としての機能を強化する。

駅前に広場を整備する　繋

現在、駅舎の正面にあるタクシープールを東側にずらすことにより、駅前に歩行者のための広場ができる。この広場は飯田を訪れる人に対して飯田の顔となる場所である。からくり時計台を配置するなどして、シンボル性を生み出す。